

大津市歴史博物館 第194回ミニ企画展

穴太遺跡

会期:令和8年(2026)2月17日(火)から4月19日(日)まで

(※一部展示品は3月29日まで)

会場:大津市歴史博物館 常設展示室内 ミニ企画展コーナー

あの上

穴太遺跡は、大津市穴太一丁目・二丁目、唐崎三丁目・四丁目、弥生町に位置し、京阪電車石山坂本線より琵琶湖側の南北約1.0km、東西約1.3kmの広い範囲にわたる遺跡です。主に、縄文～平安時代の人々の多様な活動の跡が見つっています。この周辺では1970年代から宅地造成や道路建設などの開発が進み、開発工事によって壊されることになる地下の遺跡を記録して保存するために、多くの発掘調査がおこなわれてきました。特に、西大津バイパス建設にともなう発掘調査では、縄文時代後・晩期の集落跡や、渡来人に関わると考えられる古墳時代後期の大壁建物、後に国指定の史跡となった穴太廃寺の伽藍などが発見されています。その後も遺跡内の様々な地点で調査が実施され、近年注目される発見も多くありました。本展では、これまでに大津市が実施した発掘調査成果から、穴太遺跡の縄文～平安時代の様々な出土品を紹介します。

◆令和4～5年度調査(穴太一丁目字下飴屋・出口)より

調査区の南側(3区・4区)で縄文土器や土面が出土しています。縄文時代晩期の土器が意図的に埋められたようす(埋設土器)が複数確認されました。

通期	縄文土器	5点	縄文時代
通期	土面	1点	縄文時代

◆平成28年度調査(唐崎四丁目字蟹川)より

弥生時代に発生した土石流の痕跡が見つかりました。

通期	弥生土器 壺	1点	弥生時代
通期	弥生土器片	7点	弥生時代

◆平成26年度調査(穴太一丁目字下飴屋)より

古墳時代前期の竪穴遺構から、祭祀に関わるとみられる多数の土器が出土しました。

通期	土師器 小型丸底壺	13点	古墳時代
通期	土師器 高杯	13点	古墳時代

◆令和5年度調査(下阪本二丁目字南川原)より

角柱の掘立柱建物と板塀の囲いからなる古墳時代中～後期の大型建物跡が見つかりました。柱の木材も残っていたことから、当時の建材の加工技術を知ることもできる資料です。

通期	(パネル)加工痕跡の残る柱材	—	古墳時代
通期	土師器・須恵器	3点	古墳時代

◆平成4年度調査(穴太二丁目)より

穴太廃寺の寺域確認調査にともない、古墳時代後期の横穴式石室が見つかりました。副葬品として、須恵器や渡来系の風習とされるミニチュア炊飯具が出土しています。

通期	ミニチュア炊飯具(カマド、コシキ、カマ、ナベ、カメ)	7点	古墳時代
通期	須恵器(杯蓋、杯身、椀、脚付き椀、壺、蓋付き短頸壺、有蓋高杯、無蓋高杯、提瓶、横瓶)	35点	古墳時代

◆平成5・7年度調査(穴太二丁目字上大門)より

穴太廃寺の寺域確認調査で、寺域南東の東築地堀やこれにともなう溝などが確認され、穴太廃寺の瓦が多数出土しました。

通期	方形平瓦	1点	飛鳥時代
通期	素弁蓮華文軒丸瓦	2点	飛鳥時代
通期	単弁蓮華文軒丸瓦	2点	飛鳥時代
通期	複弁蓮華文軒丸瓦	2点	飛鳥時代
通期	素文方形軒平瓦(凸面に蓮華文)	2点	飛鳥時代
通期	重弧文軒平瓦	1点	飛鳥時代

◆令和4～5年度調査(穴太一丁目字下飴屋・出口)より

縄文時代の埋設土器が出土した調査区の北側(2区・3区)では、飛鳥時代の廃棄土坑が見つかり、土坑内や周囲の溝から穴太廃寺と同じ瓦が出土しました。瓦窯に関わるものとみられます。

通期	素弁蓮華文軒丸瓦	1点	飛鳥時代
通期	複弁蓮華文軒丸瓦	4点	飛鳥時代
通期	方形平瓦	1点	飛鳥時代
通期	重弧文軒平瓦	1点	飛鳥時代
通期	焼土層出土の瓦(固着、ひび割れなどがみられる)	2点	飛鳥時代

◆令和3年度調査(下阪本二丁目字南川原)より

奈良時代の掘立柱建物、古墳～奈良時代の土器が多く出土する自然流路が見つかりました。出土した土器には、「宮家」と墨書された7世紀末の須恵器や土師器がありました。

通期	墨書土器「宮家」	4点	飛鳥時代
----	----------	----	------

◆令和4年度調査(弥生町字北山田)より

平安時代の流路から多様な遺物が出土しました。国内3例目となる金銅製花文帯金具は、渤海などとの対外交流に関わると考えられ、注目されています。

※	金銅製花文帯金具	1点	平安時代
通期	土師器皿	1点	平安時代
通期	灰釉陶器(うち2点は墨書あり)	4点	平安時代
通期	緑釉陶器	3点	平安時代
通期	(パネル)木簡	—	平安時代

※金銅製花文帯金具のみ、2026年3月29日(日)までの展示です。

※ミニ企画展「穴太遺跡」の展示資料は全て大津市埋蔵文化財調査センター保管品です。